

2012年12月10日
イオン株式会社
イオンモール株式会社

イオングループ一体となってアジアシフトを加速 12/10 カンボジア1号店「イオンモールプノンペン」起工式を実施

イオン株式会社及びイオンモール株式会社は、12月10日（月）にカンボジア王国（以下、当国）における1号店となるショッピングセンター「イオンモールプノンペン」の起工式を行い、2014年の開業に向けた建築に着手します。

「イオンモールプノンペン」は、当国の首都であるプノンペン中心部から3kmの新興レジャーエリアとして開発が進むダイヤモンド・アイランドに近接しています。周辺には高級住宅街やホテルが立ち並び、中高所得層の世帯が大半を占めるなど今後さらなる発展が見込めるエリアです。

イオンは、このエリアにカンボジアで最大規模かつ初のモール型ショッピングセンターを出店し、地域の皆さまに新しいライフスタイルをご提案します。当ショッピングセンターでは、核店舗の総合スーパー「イオン」をはじめ、総合金融、サービス、専門店などグループ各社が事業を展開し、日常のお買い物はもちろん地域のお客さまが豊かな暮らしを楽しむためのさまざまな商品やサービスをご提供します。さらに、同ショッピングセンターを拠点に環境保全・社会貢献活動を積極的に行い、地域に根ざした新しいコミュニティづくりをめざします。

イオンは、3カ年のイオングループ中期経営計画（2011年度～2013年度）において、グループ共通戦略のひとつにアセアン地域や中国で飛躍的な成長を目指す「アジアシフト」を掲げています。同戦略方針のもと、カンボジアでは、昨年8月にAEON MALL（CAMBODIA）CO., LTD（以下、「イオンモールカンボジア」）、本年8月にAEON（CAMBODIA）CO., LTD（以下、「イオンカンボジア」）を設立しました。また、昨年10月よりイオンクレジットサービス株式会社が日系企業初となる割賦販売事業を展開しています。

イオンは、今後も「お客さま第一」の理念のもと、高い成長性と収益性を両立したアジアNO.1のリテ일러を目指し、グループ各事業が一体となってカンボジアにおける事業展開を進めてまいります。

<イオンモールプノンペン 外観イメージ>



■ モールコンセプト： 「未来を創る新しい発見

Touch AEON, Touch your future

―驚き、喜び、感動にあふれるあなたの街 イオンモールプノンペン―

■ フloor概要

＜グランドフロア：トレンドスタイルコンプレックス＞

- ・ 海外・日本発のブランドからプノンペンの高感度なローカルブランドまで、最新のトレンドファッションを導入します。
- ・ 今後進行するモータリゼーションに対応し、敷地内にカーメンテナンスショップを導入します。

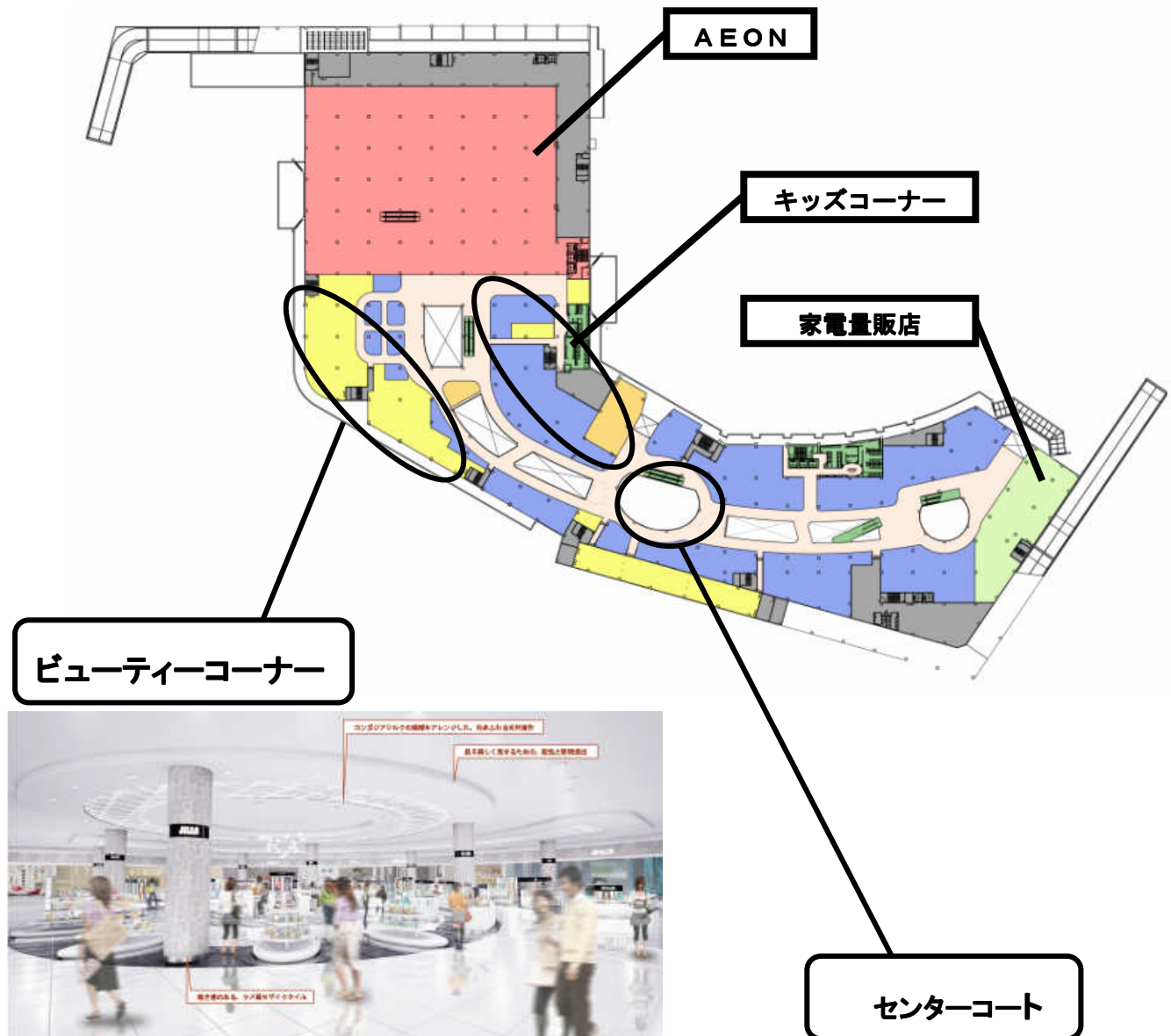


オープンカフェゾーン



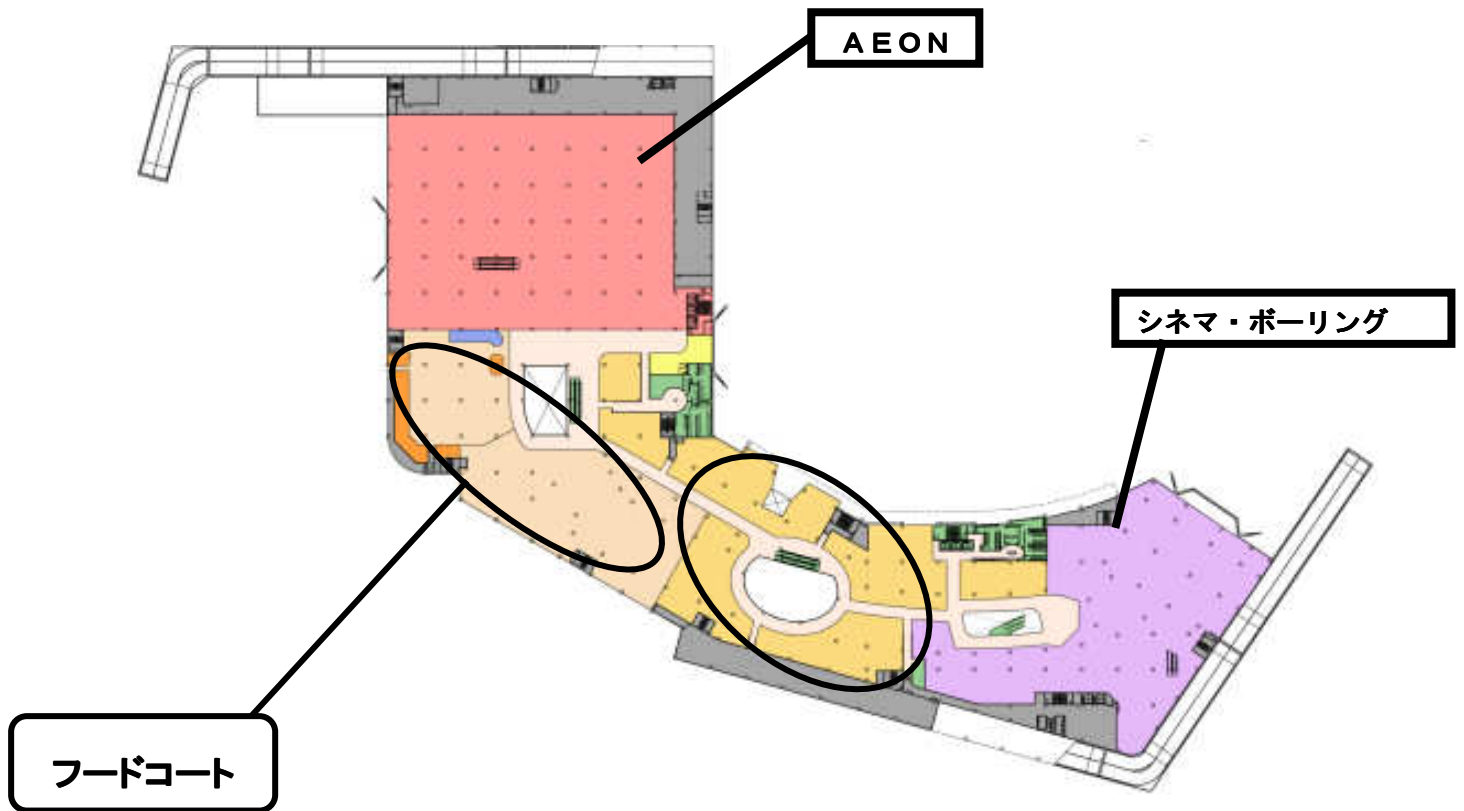
<1F：サービス&キッズ・ホビーコンプレックス>

- ・ 家電量販店、アパレル雑貨、キッチン雑貨、書店、文具で一つのコーナーを構成します。
- ・ キッズコーナーに、大型おもちゃ専門店、プレイランドを導入します。
- ・ ビューティーコーナーとして、スパ、美容院、最先端の医療機関を展開する予定です。



<2F：イートワールド&アミューズメントコンプレックス>

- ・シネマコンプレックスとボーリング場をプノンペン最大規模で展開します。
- ・レストランや大型フードコートでは、世界中のおいしい料理を取り揃えます。

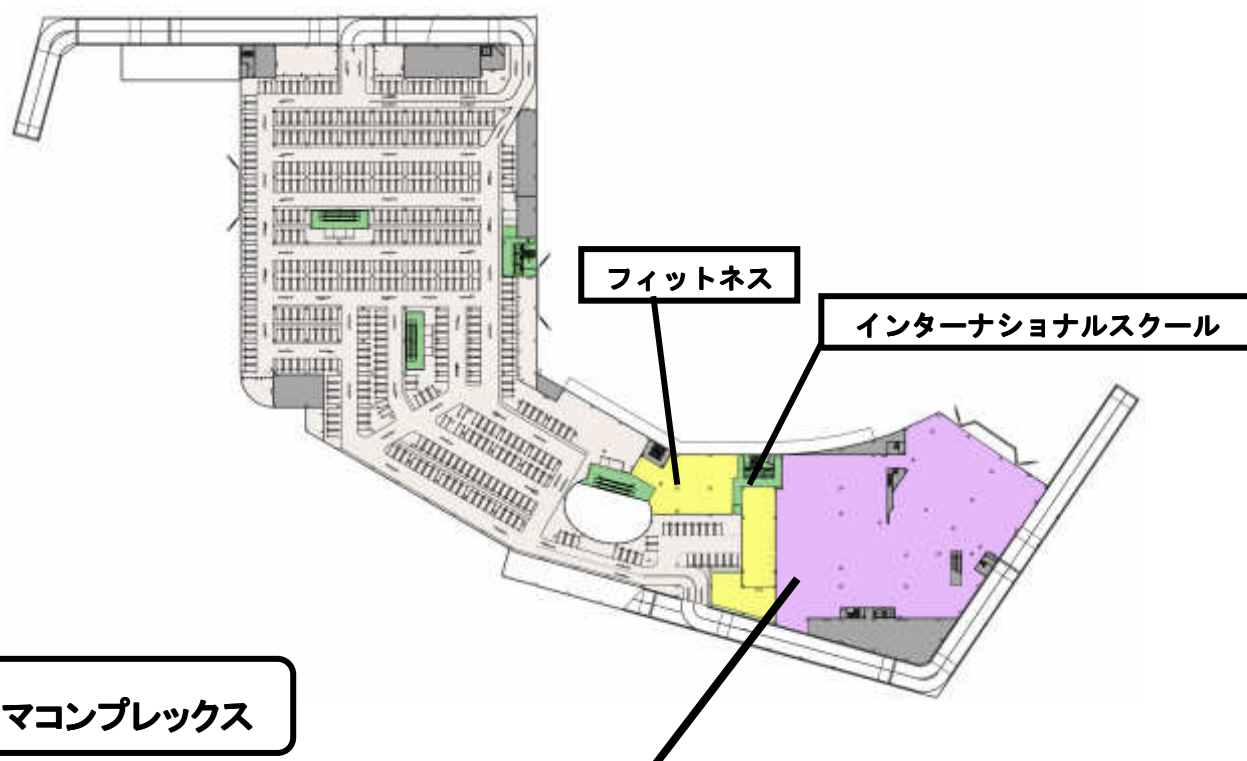


レストラン街



<3F : アミューズメントコンプレックス&サービス>

- ・ インターナショナルスクール、フィットネススタジオ、TVスタジオ等を展開する予定です。



シネマコンプレックス



ボーリング場



■ 核店舗：総合スーパー「イオン」について

核店舗の総合スーパー「イオン」は、広い売場に衣料品から食品、住居・余暇関連の商品やサービスを豊富に取り揃え、お買い物の楽しさや新しいライフスタイルをご提案します。

- ・ グランドフロア：食品を中心に、毎日の生活に必要な品々がワンストップで揃う売場をご提案します。地場の食材から日本を含む国外のお値打ちな品々まで数多く取り揃え、お客さまの即食需要に合わせた「デリカワールド」をはじめ健康へのニーズ、日々の食生活へのこだわりなど、生活シーンに合わせた売場を展開します。



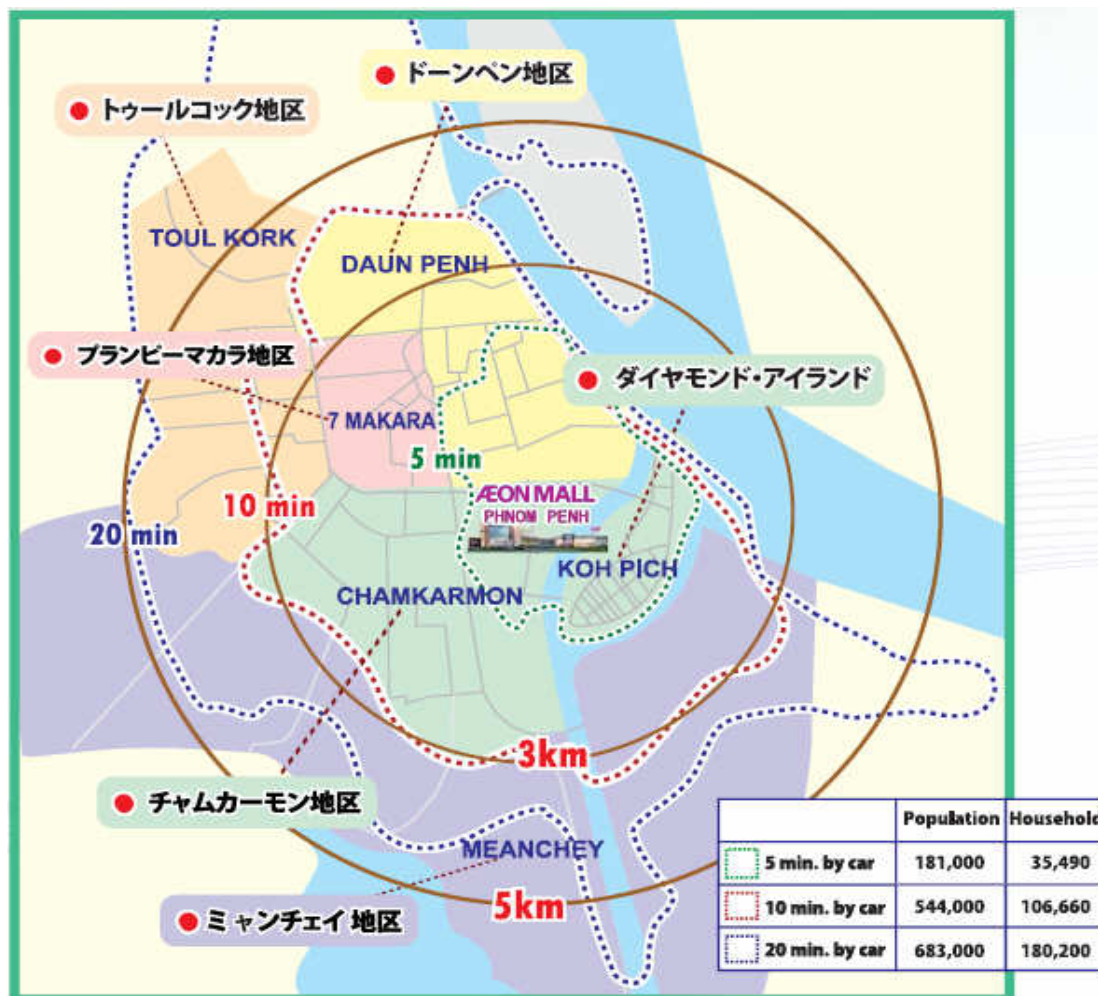
- ・ 1階フロア：20～30代の働く女性を応援する「BEAUTY WORLD」を展開します。カウンセリング化粧品、婦人服飾、レディースファッションを集積し、トータルコーディネートをご提案します。



- ・ 2階フロア：タブレット端末、携帯電話等マルチメディアコーナーを常設させた総合家電売場では、専門知識を持ったスタッフがお客さまのご要望にお応えします。また、室内遊戯施設を隣接させた大型のキッズ、ベビー売場を設置。お子さま連れのお客さまに便利で楽しい時をご提供します。



<立地周辺図>



■ 「イオンモールプノンペン」の計画概要について

- (1) 所在地: #132, Street Sothearos, Sangkat Tonle Bassac
Khan Chamkarmon, Phnom Penh (パサック川ソフィテルホテル隣)
- (2) 敷地面積: 約 68,000㎡
- (3) 延床面積: 約100,500㎡
- (4) 総賃貸面積: 約 63,000㎡
- (5) 駐車台数: 約 1,400台
- (6) 駐輪台数: 約 1,600台
- (7) 核店舗: イオン (総合スーパー)
- (8) ディベロッパー: AEONMALL (CAMBODIA) CO., LTD
- (9) 専門店数: 約150店舗を予定
- (10) 開店予定: 2014年春

<ご参考：カンボジア王国とイオンのこれまでの交流について>

カンボジア王国とイオンは、これまでイオン1%クラブや公益財団法人イオン環境財団を通じて、さまざまな交流を行ってまいりました。

■1998～2000年 「バタンバン義肢支援センター」支援

地雷被害者への義手・義足支給とリハビリテーションの施設であるカンボジアの「バタンバン義肢センター」に支援を行いました。

お客さまからの募金とイオン1%クラブからの拠出金を合わせ、これまでに1億7,363万円（86億8,150万里エル）を、この施設を運営している日本赤十字社へ寄付しました。

（*1円＝50リエルで換算）



■2000～2003年 「学校建設支援事業」

長く続いた内戦によって失われたカンボジアの教育基盤の早期回復を願って(財)日本ユニセフ協会とのパートナーシップのもとカンボジアに149校の学校を建設支援しました。2003年度までにイオン各社の店頭と事業所で募金活動を実施し、お客さまからの募金1億4,679万円（73億3,950万里エル）にイオン1%クラブからの寄付金1億5,400万円（77億リエル）を加えた総額3億円（150億リエル）を(財)日本ユニセフ協会へ寄付しました。また、教師の再教育プログラム・奨学金制度などのソフト面にも力を入れ、カンボジアの未来を担う子どもたちへの教育支援活動に取り組みしました。



■2002、2004～2006年 「アンコールワット植樹」

延べ1,000名を超えるボランティアの皆さまにご参加いただき、世界遺産のアンコールワット周辺3ヘクタールの敷地で、現地の自生種のラワン、チーク類の苗木等合計7,600本を植樹しました。



■2007年「シハヌーク・イオン博物館」建設支援

「カンボジア人による、カンボジアのための、カンボジア遺跡の保存・修復」を方針に活動し、上智大学の石澤学長（当時）を代表とするアンコール遺跡国際調査団のカンボジア人考古学研修生達によって、12世紀末の仏教寺院バンテアイ・クデイ遺跡から歴史的価値のある千体仏石柱を含む274体の石仏が発掘されました。イオンはカンボジアの文化遺産が同国の誇りになることを願い、これらの石仏の研究と保存を目的とする「シハヌーク・イオン博物館」の建設を支援しました。



■2010～2011年 「カンボジア植樹」

カンボジアで12～13世紀に栄えたアンコール王朝の遺跡「チャウスレイ・ヴィヴォル寺院」に森をつくり、風雨から遺跡を守るために植樹を行いました。



■2010～2012年 「イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」

カンボジアおよびラオスでは、親から水汲みを中心とした家事労働を任されるため、子どもたちは年長になるほど授業の出席率が低下しています。

また、河川や池から汲んだ水を使っているため、衛生面・健康面で大きな問題となっています。

イオンは2010年より3年計画で（財）日本ユニセフ協会とのパートナーシップのもと、セーフウォーターキャンペーンを実施しています。お客さまからの募金にイオン1%クラブが同額の寄付金を加算して、日本ユニセフ協会に寄贈しています。

支援を必要とする子どもたちが暮らす村に重力式給水施設、雨水タンク及び井戸を新たに導入する予定です。



■ **2010年 名誉会長 岡田卓也がカンボジア王国友好勲章大十字型章親授**

イオン(株)の名誉会長相談役である岡田卓也が、
2010年12月21日カンボジア王国より「友好
勲章大十字型章 (Royal Order of Sahametrei Grand
Cross)」を親授されました。これは、長年にわたる
カンボジア王国への環境社会貢献活動が、カンボジア
の経済、文化交流の発展に貢献したと評価されたもの
です。

